

れい わ ねん ど
令和 7 年度

きゅうぞうえんせこうかんりぎじゅつけんてい
1 級 造園施工管理技術 検定
だいいちじけんてい しけんもんだい
第一次 検定・試験 問題 B

つぎ ちゅうい よ かいとう
次の注 意をよく読んでから解答してください。

ちゅう い
【注 意】

- これは第一次検定の試験問題Bです。表紙とも 10 枚あります。
HBの鉛筆又はシャープペンシルで、解答用紙（マークシート）に試験地、氏名、受験番号を記入してください。
受験番号は該当する数字をぬりつぶしてください。（万年筆・ボールペンの使用は不可）
- 問題は全て必須です。29 問題全部を解答してください。

かいとうようし
解答用紙は

問題番号	解答記入欄			
問題 1	①	②	③	④
問題 2	①	②	③	④
問題 10	①	②	③	④

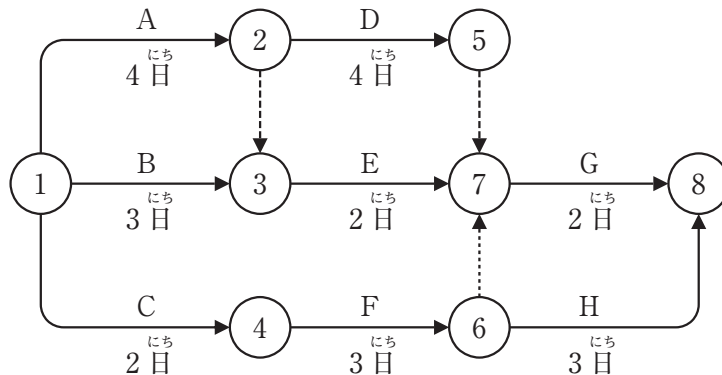
となっていますから、

もんだいばんこう たいおう かいとう きにゅうらん せいかい おも すうじ
問題番号に対応する解答記入欄の正解と思う数字をぬりつぶしてください。
もんだい せいかい ひと ふた いじょう とくてん
問題 1 ～ 23 については正解が一つしかないの、二つ以上ぬりつぶすと得点になりません。
もんだい せいかい すべ せいかい すうじ すべ
問題 24 ～ 29 については正解を全てぬりつぶしてください。正解の数字を全てぬりつぶしてないものや、正解でない数字までぬりつぶしてあるものは得点になりません。
かいとう ぬりつぶし方 かいとうようし かいとう きにゅうれい かいとう さんしょう
解答のぬりつぶし方は、解答用紙の解答記入例（ぬりつぶし方）を参照してください。
かいとう ていせい ば あい け け ていせい
解答を訂正する場合は、消しゴムできれいに消してから訂正してください。

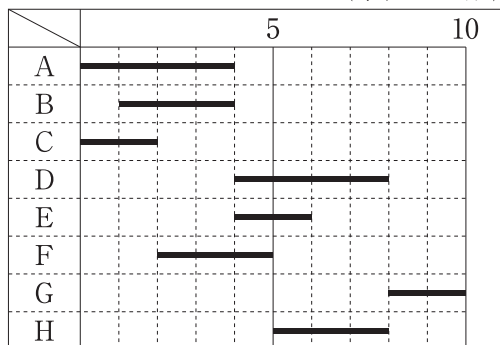
- 試験問題の漢字のふりがなは、問題文の内容に影響を与えないものとします。
- 試験問題の余白は、計算等にもさしつかえありません。
- 解答用紙は、いかなる場合も持ち帰りできません。試験監督者に直接提出してから退室してください。
- 試験問題は、試験終了時刻（15 時 45 分）まで在席した方で、希望者に限り持ち帰りを認めます。途中退室者は、持ち帰りできません。

※ 問題は全て必須ですから、29 問題全部を解答してください。

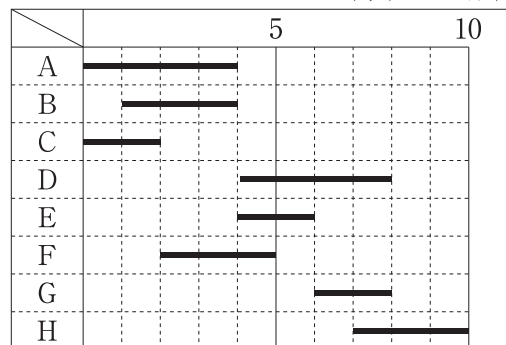
- 〔問題〕 1) 下図は、ある工事のネットワーク式工程表を示したものである。この工事をバーチャートで示したものととして、**適当なもの**はどれか。
- ただし、図中のイベント間のA～Hは作業内容を、日数は作業日数を表す。



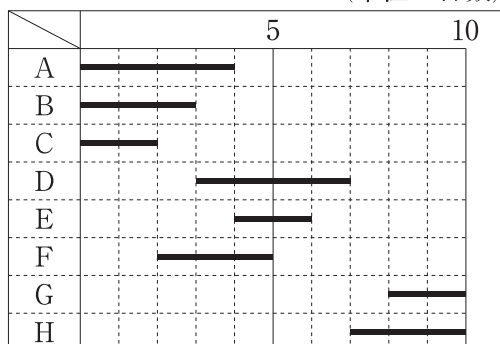
(1) (単位：日数)



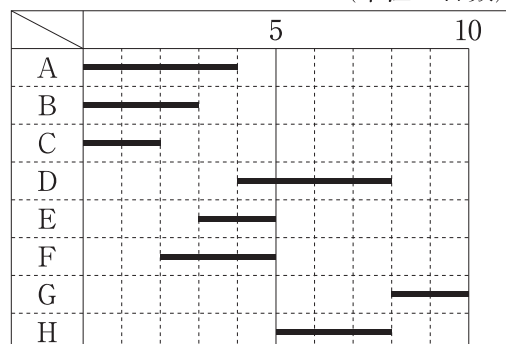
(2) (単位：日数)



(3) (単位：日数)



(4) (単位：日数)



- 〔問題〕 2) 次の条件で床掘りを行う場合のバックホウの1日当たり掘削量（地山土量）として、正しいものはどれか。

〔条件〕

- ・バックホウの台数 : 2台
- ・バケットの容量（ほぐし土量） : 0.5 m³
- ・バックホウのサイクルタイム : 45秒
- ・バックホウの作業効率 : 0.8
- ・バックホウの1日平均作業時間 : 6時間
- ・土量変化率（L） : 1.2

- (1) 259 m³
- (2) 320 m³
- (3) 461 m³
- (4) 500 m³

- 〔問題〕 3) 曲線式工程表のうち出来高累計曲線に関する記述として、適当でないものはどれか。

- (1) 出来高累計曲線は、一般に、縦軸に工事出来高又は施工量の累計、横軸に工期の時間的経過をとって、全体工事に対する出来高の比率をグラフ化したものである。
- (2) 毎日の出来高が、工事の初期から中期に向かって増加し、中期から終期に向かって減少する場合、出来高累計曲線は変曲点を持つS型の曲線となる。
- (3) 出来高累計曲線において、実施工程曲線が予定工程曲線よりも上方にある場合、工事が予定よりも遅れていることを意味する。
- (4) 出来高累計曲線は、実施工程曲線と予定工程曲線を比較して作業の進行度合はわかるが、作業に必要な日数や工期に影響する作業はわからない。

〔問題 4〕 工事の建設費と工期に関する記述のうち、**適当でないものはどれか。**

- (1) 最適工期とは、直接工事費と間接工事費の合計額が最小となる最も経済的な工期のことである。
- (2) ノーマル・コストとは、工事を構成する各作業の直接工事費がそれぞれ最小となるような方法で工事を行った場合の全工事の直接工事費の総額のことである。
- (3) クラッシュ・コストは、クラッシュ・タイムにおいて得られる直接工事費のことであり、間接工事費は含まれない。
- (4) 間接工事費は、一般に、ノーマル・タイムで最小に、クラッシュ・タイムで最大となり、その間をほぼ直線的に変化する。

〔問題 5〕 「公共用緑化樹木等品質寸法規格基準（案）」における用語の定義に関する記述のうち、**適当なものとはどれか。**

- (1) 「仕立物」とは、樹木の自然な生育にまかせるのではなく、その樹木が本来持っている自然樹形とは異なり、人工的に樹形を作って育成したものをいう。
- (2) 「根巻」とは、樹木等の移植に際し、掘り上げられる根系を含んだ土のまとまりをいう。
- (3) 「ふるい掘り」とは、樹木等の移植に際し、太い根を切らずに先端までたぐって掘り上げることをいう。
- (4) 「幹周」とは、根元付近から幹が分岐した樹木について、分岐した直上部における幹の周長の総和の75%の値をいう。

〔問題 6〕 「公共緑化樹木等品質寸法規格基準（案）」に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) この基準（案）で定める寸法値は、個体差を考慮した標準的な値であるため、樹木等の寸法値が寸法規格に適合しているかの判定に当たっては、全ての項目で寸法規格を上回る必要はない。
- (2) 樹木の品質規格は、樹勢と樹姿に大別して定められ、「生育、葉、病虫害」などの表示項目は樹勢に含まれ、「樹形（全形）、枝葉の配分、下枝の位置」などの表示項目は樹姿に含まれる。
- (3) シバ類の品質規格は、「葉、ほふく茎、根、病虫害、雑草等」の5項目により表示される。
- (4) シバ類、草花類を除くその他地被類の品質規格は、「形態、葉、根、病虫害」の4項目により表示される。

〔問題 7〕 植栽基盤の調査に関する次の（イ）、（ロ）の記述について、（A）、（B）に当てはまる数値の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

- (イ) 長谷川式土壌貫入計を用いて、対象土壌の硬度を測定したところ、深さ20 cm～30 cmの土層で連続してS値が（A）であったため、土壌硬度に関しては植栽基盤として不良と判定した。
- (ロ) 長谷川式簡易現場透水試験器を用いて、対象土壌の透水性を測定したところ、最終減水能が（B）であったので、土壌透水性に関しては植栽基盤として良と判定した。

（A）

（B）

- | | | |
|-----------------------|----|-------------|
| (1) 0.7～1.0 (cm/drop) | —— | 25 (mm/hr) |
| (2) 0.7～1.0 (cm/drop) | —— | 120 (mm/hr) |
| (3) 1.5～4.0 (cm/drop) | —— | 25 (mm/hr) |
| (4) 1.5～4.0 (cm/drop) | —— | 120 (mm/hr) |

- 〔問題 8〕 つぎ しめ そくてい ち とうけいりょう え とうけいりょう い み かん くみ
次に示す測定値から、(A)、(B) の統計量を得た。これらの統計量の意味に関する組
あわ ただ
合せとして、正しいものはどれか。

そくていかい 測定回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
そくてい ち 測定値	100	76	97	68	80	87	51	69	96	76

	(A)	(B)
とうけいりょう 統計量	49	78

- (A) (B)
- (1) R (レンジ) ——— Me (メディアン)
- (2) R (レンジ) ——— $\bar{X}$ (エックスバー)
- (3) Mo (モード) ——— Me (メディアン)
- (4) Mo (モード) ——— $\bar{X}$ (エックスバー)

- 〔問題 9〕 せきざい かん き じゅつ てきとう
石材 (JIS A 5003) に関する記述のうち、適当でないものはどれか。

- (1) 「板石」は、^{いたいし}厚さが 15 cm ^{あつ}未満で、かつ幅が厚さの 2 倍以上であること。
- (2) 「間知石」は、^{けん ち いし}面が原則としてほぼ^{めん げんそく}方形に近いもので、^{ほうけい ちか}控えは四方落としとし、^{ひか しほう お}面に直角^{めん ちよっかく}に測った^{はか ひか}控えの長さ^{なが}は、^{めん さいしやうへん}面の最小辺の 1.5 倍以上であること。
- (3) 「そり」は、^{せきざい ひやうめんおよ そくめん}石材の表面及び側面における^ま曲がり^まをいう。
- (4) 「穴」は、^{あな}石材の表面^{せきざい ひやうめんおよ}及び側面^{そくめん}に現れた^{あらわ}穴^{あな}のことであり、^{なんせき}軟石^{けってん}では欠点となる。

- 〔問題 10〕 下表は、呼び強度を 18 (N/mm²) と指定した、レディーミクストコンクリート (JIS A 5308) である普通コンクリートの受け入れ検査における圧縮強度の試験結果である。合格となるケースはどれか。

ケース	圧縮強度試験結果 (N/mm ²)		
	1 回目	2 回目	3 回目
(イ)	17.0	18.0	18.0
(ロ)	15.5	17.0	22.0
(ハ)	14.0	22.0	21.0
(ニ)	19.5	15.0	20.5

- (1) (イ)
- (2) (ロ)
- (3) (ハ)
- (4) (ニ)

- 〔問題 11〕 建設工事における品質管理に関する記述のうち、適当でないものはどれか。

- (1) 工程能力図は、時間的な品質変動の関係を表したものであり、得られたデータが規格値を満足しているかどうかの判断に用いるが、工程に異常があるかの判断に用いることはできない。
- (2) 品質管理の手順としては、管理しようとする品質特性を選定し、その特性について品質標準を設定し、その品質標準を満足させるための作業標準を決定する。
- (3) 管理図において、管理限界線内に点があっても、その点の並び方にくせ（特別な傾向）があるときは、異常原因の存在が推測されることから、工程は安定した状態にないと判断される。
- (4) 品質管理の目標は、一般に、工程の安定性に関わらず、構造物が規格を満足していれば達成される。

〔問題 12〕 「工種」と「品質特性」及びその「試験方法」に関する組合せとして、**適当なもの**はどれか。

- | | (工種) | (品質特性) | (試験方法) |
|-----|-----------|--------|------------|
| (1) | 土工 | 支持力 | 平板載荷試験 |
| (2) | 路盤工 | 粒度 | CBR 試験 |
| (3) | コンクリート工 | 安定性 | ふるい分け試験 |
| (4) | アスファルト舗装工 | 平坦性 | マーシャル安定度試験 |

〔問題 13〕 建設機械等を使用する作業のうち、「労働安全衛生法」で定める都道府県労働局長の**免許又は技能講習修了の資格を必要とするもの**はどれか。

- (1) 機体重量が2.4tのバックホウの運転
- (2) つり上げ荷重が2.6tの移動式クレーンの運転
- (3) 機体重量が4.0tの振動ローラーの運転
- (4) 作業床の高さが8.0mの高所作業車の運転

〔問題 14〕 移動式クレーンの作業に関する記述のうち、「労働安全衛生法」上、**誤っているもの**はどれか。

- (1) つり上げ荷重が0.9tの移動式クレーンの玉掛け作業において、玉掛け特別教育を受講した者に行わせた。
- (2) 移動式クレーンで、つりクランプ一個を用いて玉掛けをした荷をつり上げているときに、つり荷の下を立入禁止区域とし、合図者以外の通行を禁止した。
- (3) 架空電線に近接することにより感電する恐れがある場所での作業において、架空電線への絶縁用防護具を装着した上で行わせた。
- (4) 地盤が軟弱な場所での作業において、移動式クレーンの転倒を防止するため、必要な広さ及び強度を有する鉄板を敷設し、その上に移動式クレーンを設置して行わせた。

〔問題 15〕 造園工事における高所作業に関する記述のうち、「労働安全衛生規則」上、誤っているものはどれか。

ただし、各設備の構造は丈夫であり、たわみが生じるおそれがなく、かつ、著しい損傷、変形又は腐食がないものとする。

- (1) 高さ 3 m の架設通路において、勾配が 20 度となったため、通路表面に滑止めを設置した。
- (2) 高さ 3 m の本足場の作業場所において、床材を用いて幅 55 cm の作業床を設置し、床材と建地との隙間を 20 cm とした。
- (3) 高さ 3 m の本足場の作業床において、物体の落下防止措置として、高さ 15 cm の幅木を設置した。
- (4) 高さ 3 m の単管足場の架設通路において、墜落により労働者に危険を及ぼすおそれのある箇所に、高さ 90 cm の手すり及び高さ 50 cm の柵を設置した。

〔問題 16〕 常時 25 人の労働者を使用する建設業の事業場において、「労働安全衛生法」上、選任しなければならない者として、正しいものはどれか。

- (1) 安全衛生推進者
- (2) 安全管理者
- (3) 衛生管理者
- (4) 産業医

〔問題 17〕 「都市公園法」に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 公園管理者以外の者が、博覧会のために設けられる仮設工作物を都市公園に設けようとする場合は、公園管理者から占用の許可を受けなければならない。
- (2) 都市公園に公園施設として設ける運動施設の敷地面積の総計は、いかなる場合も当該都市公園の敷地面積の 100 分の 50 以下でなければならない。
- (3) 民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI 法）に基づき選定された民間事業者が同法に基づき公園施設を設け、または管理する期間は、3 年を超えることができない。
- (4) 都市公園の占用の許可を受けて設けた施設の占用の期間が満了したときは、公園管理者が都市公園を原状に回復しなければならない。

〔問題 18〕 「建築基準法」に関する次の記述の（Ａ）～（Ｃ）に当てはまる語句の組合せとして、正しいものはどれか。

（Ａ）は、建築物を建築しようとする場合において、建築確認の申請書を提出しなければならない。建築確認を受けた工事について、（Ｂ）は工事現場の見やすい場所に建築確認があった旨の表示をしなければならない。（Ｃ）は、（Ａ）や（Ｂ）に対して、工事の施工の状況に関する報告を求めることができる。

- | | （Ａ） | （Ｂ） | （Ｃ） |
|-----|------|--------|------|
| (1) | 建築主事 | 設計者 | 建築主 |
| (2) | 建築主事 | 工事の施工者 | 建築主 |
| (3) | 建築主 | 設計者 | 建築主事 |
| (4) | 建築主 | 工事の施工者 | 建築主事 |

〔問題 19〕 元請業者の業務に関する記述のうち、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

- 公共工事を請け負った元請負人が、その建設工事を一括して他人に請け負わせる場合には、あらかじめ発注者の書面による承諾が必要である。
- 元請負人は、その請け負った建設工事を施工するために必要な工程の細目、作業方法など元請負人において定めるべき事項を定めようとするときは、あらかじめ下請負人の意見をきかなければならない。
- 元請負人は、前払金の支払いを受けたときは、下請負人に対して、資材の搬入、労働者の募集、その他建設工事の着手に必要な費用を前払金として支払うよう適切な配慮をしなければならない。
- 元請負人は、下請負人からその請け負った建設工事が完成した旨の通知を受けたときは、当該通知を受けた日から20日以内で、かつ、できる限り短い期間内にその完成を確認するための検査を完了しなければならない。

〔問題 20〕 施工体制台帳作成義務のある建設業者に対する、施工体制台帳及び施工体系図に関する記述のうち、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

- (1) 施工体制台帳には、下請負人が請け負った建設工事に関する事項についても、建設工事の名称、内容及び工期を記載しなければならない。
- (2) 施工体制台帳には、建設業者が発注者から直接請け負った建設工事に関する事項で、施工方法及びその安全点検方法を記載しなければならない。
- (3) 各下請負人の施工の分担関係が明らかになるように系統的に表示した施工体系図を作成し、これを当該工事現場の見やすい場所に掲示しなければならない。
- (4) 施工体制台帳の備え置き及び施工体系図の掲示は、原則として、発注者から請け負った建設工事の目的物を発注者に引き渡すまで行わなければならない。

〔問題 21〕 「労働基準法」に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 建設業においては、使用者は、満15歳に達した日以後の最初の3月31日が終了するまでの児童を、労働者として使用してはならない。
- (2) 使用者は、原則として、その雇入れの日から起算して6ヶ月間継続勤務し、全労働日の8割以上出勤した労働者に対して、継続し、又は分割した5労働日を上限とする有給休暇を与えなければならない。
- (3) 使用者は、労働者名簿、賃金台帳及び雇入れ、解雇、災害補償、賃金その他労働関係に関する重要な書類を5年間保存しなければならない。
- (4) 使用者は、原則として、労働者を解雇しようとする場合においては、少なくとも30日前にその予告をしなければならない。30日前に予告をしない使用者は、30日分以上の平均賃金を支払わなければならない。

〔問題 22〕 「労働安全衛生法」に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 建設業を行う事業者は、常時50人以上の労働者を使用する事業場ごとに、安全委員会を設けなければならない。
- (2) 建設業を行う事業者は、衛生委員会を設置する場合、当該事業場の労働者で衛生に関し経験を有するもののうちから事業者が指名した者をその構成員としなければならない。
- (3) 建設業を行う事業者は、少なくとも3ヶ月に1回作業場等を巡視し、衛生状態に有害のおそれがあるときは、直ちに、労働者の健康障害を防止するため必要な措置を講じなければならない。
- (4) 建設業を行う事業者は、高さが2メートル以上の箇所で作業を行う場合において、悪天候のため、当該作業の実施について危険が予想されるときは、当該作業に労働者を従事させてはならない。

〔問題 23〕 「騒音規制法」に関する次の記述の(A)に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

騒音規制法に基づく指定地域内において、著しい騒音を発生する一定の建設作業を行う場合には、原則として作業の開始の日の7日前までに、(A)に届け出なければならない。

- (1) 警察署長
- (2) 市町村長
- (3) 都道府県知事
- (4) 厚生労働大臣

※問題 24～問題 29 については正解番号を全てめりつぶしてください。

次に示す〔工事数量表〕及び〔工事に係る条件〕に基づく造園工事の施工管理に関して、以下の問題 24 ～ 29 について答えなさい。

〔工事数量表〕

工 種	種 別	細 別	規 格				単位	すうりようひょう 数 量	備 考
しよくさいこう 植 栽 工	こう 高 植 栽 工	ケヤキ	H(m)	C(m)	W(m)	かぶだちすう 株立数	ほん 本	10	しちゅうとりつ 支柱 取付け
			5.0	0.21	1.5	—			
		ナツツバキ	H(m)	C(m)	W(m)	かぶだちすう 株立数	ほん 本	5	しちゅうとりつ 支柱 取付け
			3.0	0.15	—	ぼんだち 3 本立			
	ちゅう 中 植 栽 工	(A)	H(m)	C(m)	W(m)	かぶだちすう 株立数	ほん 本	5	
			※	※	※	※			
	ち 地 植 栽 工	ノシバ	36 cm × 28 cm × 10 枚				m ²	3,000	めじば 目地張り (目土あり)
い 移 植 工	こう 高 移 植 工	カツラ	H(m)	C(m)	W(m)	かぶだちすう 株立数	ほん 本	1	しちゅうとりつ 支柱 取付け
			7.0	0.60	4.0	—			
こうえんしせつとう 公園施設等 撤去・移設工	こうえんしせつ 公園施設 撤去工	こうえんしせつ 公園施設 撤去	もくせいふくごうゆうぐ 木製複合遊具				しき 式	1	
	じゅもくばっさい 樹木伐採 ・拔根工	こうぼくばっさい 高木伐採	みきしゅう 幹周 0.6 m 以上 0.9 m 未満				ほん 本	3	じゅせいふりょう 樹勢不良

注) 表中の※欄に入る語句及び数値は、出題の趣旨から記入していない。

〔工事に係る条件〕

- 本工事は、供用中の地区公園内の一部を再整備する工事であり、工事数量表に基づいて施工するものである。
- 本公園の位置は関東地方である。
- 中低木植栽工 (A) においては、耐陰性に優れている樹木を植栽する。
- ノシバの植栽を行う区域は平坦な地形である。
- 移植工のカツラは、供用区域内から移植するものであり、前年に根回し済みである。
- 工期は、12 月 10 日から翌年の 3 月 30 日までとする。

〔問題 24〕 本工事の中 低木 植 栽 工 について、(A) に当てはまる 耐 陰 性 が 優 れ て い る 樹 木 と し て、
適 当 な も の を 全 て 選 び な さ い。

- (1) アオキ
- (2) カクレミノ
- (3) サルスベリ
- (4) ユリノキ

〔問題 25〕 本工事において、カツラの 移 植 に 関 す る 記 述 と し て、適 当 な も の を 全 て 選 び な さ い。

- (1) 運搬時に根鉢の重 量 を 軽 く す る た め、掘 取 り の 一 週 間 前 か ら 灌 水 を 控 え た。
- (2) 前年に行われた根回しで発根した根を取り除くため、根回しの寸法より一回り小さく掘取り
を行 っ た。
- (3) 掘取り後、根鉢の崩れや乾燥を防ぐため、縄で樽巻きと揚げ巻きを行 っ た。
- (4) 鉢を植え穴に入れ、土を半分ほど埋め戻したあと、水を注いで泥状にし、鉢の周りに土が
密 着 す る よ う に 棒 で 泥 を よ く 突 き な が ら 埋 め 戻 し た。

〔問題 26〕 本工事において行 っ た 芝 生 地 の 施 工 に 関 す る 記 述 と し て、適 当 な も の を 全 て 選 び な さ
い。

- (1) 張芝の施工は、霜害を受けやすい1～2月の厳寒期を避け、3月に行 っ た。
- (2) 整地に当たり、地 表 か ら 30 cm 程 度 を 耕 転 し、土塊を細かく砕くとともに、雑草や瓦礫な
どを取り除き、そのまま数日間放置して土を落ち着かせた。
- (3) 耕耘の後、表面の凹凸を直し、降雨による滞水で土 壌 中 の 湿 度 が 保 た れ る よ う、芝生地の
中 央 を 周 囲 より 低 く 仕 上 げ、軽 ー ローラーで土を締めた。
- (4) 芝張りの後、発根を促すため、芝の葉が半分隠れる程度に目土をかけて灌水した。

〔問題 27〕 本工事の公園施設撤去工によって生じる建設副産物に関する記述のうち、**適当なもの**を**全て**選**び**な**さい**。

- (1) 工事で発生する伐採木を工事現場でチップ化し、植栽工事におけるマルチング材として活用した。
- (2) 元請業者から建設汚泥の運搬や処分を委託された者が、産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付を行った。
- (3) 建設発生木材の処理について、工事現場から最も近い再資源化施設までの距離が80 kmであったため、再資源化に代えて中間処理施設で縮減（焼却）を行った。
- (4) コンクリート塊の再資源化を行う際、再資源化施設の受入れの条件を勘案し、分別並びに破碎又は切断を行った上で、再資源化施設に搬出した。

〔問題 28〕 本工事の高木植栽に用いる樹木の寸法規格の判定として、「公共用緑化樹木等品質寸法規格基準（案）」に照らし、**合格となるものを全て**選**び**な**さい**。

- (1) 樹高が5.2 mのケヤキで、幹周が0.23 m、枝張が最大幅で1.8 m、最小幅で1.4 mのもの。
- (2) 樹高が6.0 mのケヤキで、幹周が0.25 m、枝張が最大幅で1.9 m、最小幅で1.0 mのもの。
- (3) 3本立のナツツバキで、樹高がそれぞれ3.5 m、3.1 m、2.3 m、幹周がそれぞれ0.10 m、0.08 m、0.05 mのもの。
- (4) 4本立のナツツバキで、樹高がそれぞれ3.1 m、2.9 m、2.8 m、2.4 m、幹周がそれぞれ0.09 m、0.08 m、0.06 m、0.05 mのもの。

〔問題 29〕 本工事の高木植栽工におけるバックホウを用いた作業に関する記述のうち、「労働安全衛生法」上、正しいものを全て選びなさい。

- (1) 作業現場へバックホウを移送するため、貨物自動車に十分な長さ、幅及び強度を有する道板を適当な勾配で確実に取り付け積卸しを行った。
- (2) 作業を行うのに十分な照度が確保されていたため、前照灯を備えていないバックホウで作業を行った。
- (3) 旋回範囲内に立ち入って作業を行う必要があったため、他の労働者や通行人が立ち入らないよう、立ち入り禁止の看板を見やすい箇所に設置した上で作業を行った。
- (4) 運転者が運転位置を離れる必要があったため、バケットを地面につけ、原動機を止め、走行ブレーキをかける等逸走を防止するための措置を講じた。